

# 日本自然保育学会 第2回大会 —自然保育の確かな歩みを—

会期 2017年11月18日(土)・19日(日)

会場 上田女子短期大学(長野県上田市)

いつのまにかグローバル化が当たり前のごとく語られるようになりました。では、私たちが関わる保育や教育ではどのような影響があるのでしょうか。国際的な視座から日本における保育・教育の課題を読み解き、行き先の不透明な(不確実性の時代)と称される現代社会において、保育者・教育者にとって何が大切なのかについて皆さんと共に考える機会としたいと思います。また、2018年4月に施行される保育所保育指針で示された「10の姿」などの国内の動向にも注目し、保育・教育の根本課題について、人間の本质を表す言葉としての〈ヒューマン・ビーイング〉をキーワードに捉え直してみたいと思います。

基調講演  
11月18日(土)  
14:45~16:15

グローバル化の時代に求められる幼児教育・保育とは  
〈ヒューマン・ビーイング〉からの問い直し  
講師 永田佳之氏(聖心女子大学文学部教育学科教授)

シンポジウム  
11月19日(日)  
10:15~12:15

『自然保育』の実践における子どもの育ちを言語化する  
話題提供 岸井慶子氏(青山学院女子短期大学教授)  
嘉成頼子氏(一般社団法人森の風認可外保育施設  
森の風ようちえん園長)  
宮島 新氏(信州大学教育学部附属長野小学校教諭)  
司会 酒井真由子(上田女子短期大学准教授)



## 【お問い合わせ・申込み】

※上記の他、大会プログラムには口頭発表、ポスター発表、ラウンドテーブルがあります。

### <参加費>

- 会 員……………5,000円(資料代込)
- 非会員 (一 般) ……8,000円(資料代別)
- (保育者) ……5,000円(資料代別)
- (学 生) ……2,000円(資料代別)
- \* 資料代 ……1,000円
- 基調講演のみ参加 ……1,000円

### <事前申込は大会事務局まで>

大会委員長 町田 育弥(上田女子短期大学幼児教育学学科長)  
実行委員長 酒井真由子(上田女子短期大学幼児教育学科准教授)  
大会事務局 〒386-1214 長野県上田市下之郷乙 620 番地  
                  上田女子短期大学 酒井研究室  
                  E-mail : jsececn2017@gmail.com  
                  TEL(0268)38-2352(代)/ FAX (0268)38-7315  
大会ウェブサイト : <https://jsececn2017.jimdo.com/>

主催 : 日本自然保育学会

後援 : 長野県、長野県教育委員会、上田市、上田市教育委員会、長野県私立幼稚園・認定こども園協会  
長野県保育連盟、長野県野外出保育連盟、学校法人北野学園上田女子短期大学

# 大会プログラム

◎発表順・会場等が変更となる場合がございます。

## 口頭発表 11月18日(土) 10:00-12:10 (会場:A・B・C・D教室)

### <A教室>

1. 鳥取県における「森のようちえん」支援制度の社会的効果 東根ちよ (鳥取大学)
2. 石川県における自然保育の現状と課題 坂井理笑 (金沢大学能登里山里海マイスター育成プログラム)
3. フィンランドとデンマークの自然保育に関する研究 柴田卓 (郡山女子大学短期大学部)
4. 大学・自治体・NPOの協働による自然保育の実践 藤井徳子 (富山福祉短期大学)

### <B教室>

1. 幼児期における自然体験と子どもにおける高次神経活動の発達  
—信州型自然保育K園におけるGO/NO-GO課題調査より— 渡邊宣明 (明星大学・院)
2. 自然との関わりから広がる表現活動～その実践と考察～ 小林成親 (NPO法人 山の遊び舎はらべこ)
3. 自然環境豊かな園庭をもつ園の教材性—仙台市の園を中心に— 中村俊哉 (常葉大学)

### <C教室>

1. 保育内容「環境」の充実化に向けたエコロジー概念導入に関する考察  
—「森のムッレ教室」に見るサステナビリティ教育の可能性— 光橋翠 (サステナブル・アカデミー・ジャパン)
2. 森の力で保育者が緩む～自然保育の魅力と可能性～ 中澤眞弓 (一般社団法人 森のようちえん ぴっぴ)
3. 「森のようちえん」に勤める保育者の意識—保育のプロセスに着目して—  
○山口美和 (上越教育大学) 鈴木康弘 (東京大学・院) 高田正哉 (東京大学・院)

### <D教室>

1. どのようにして自然保育によって他者理解を育てられるか —シンボリック相互作用論からのアプローチ—  
高田正哉 (東京大学・院)
2. 東京府社会事業協会主催の林間幼稚園—雑誌『東京府社会事業協会報』を中心として掲載された記事の検討から—  
中島 豊 (長野大学)
3. 「自然保育」概念に関する一考察 榎本真美代 (佐賀女子短期大学)
4. 森のようちえんへの歴史的アプローチに向けて 鈴木康弘 (東京大学・院)

## 基調講演 (一般公開) 11月18日(土) 14:45-16:15 (会場:北野講堂)

グローバル化の時代に求められる幼児教育・保育とは: (ヒューマン・ピーイング) からの問い直し  
講 師 永田佳之氏 (聖心女子大学文学部教育学科教授)

## ポスター発表 11月19日(日) 9:00-10:00 (会場:学生ホール)

1. 自然環境の素材を活かした幼児表現活動の一考察—木の葉のコラージュ制作を事例に—  
○伊藤はるか (アトリエ SOL スクール) ○仁藤喜久子 (仙台白百合大学)
2. 幼児の「学び」を育む自然保育の実践 上原貴夫 (上田女子短期大学)
3. 環境教育実習を通して—その学びを振り返る—  
○塩崎みづほ (秋草学園短期大学) ○北澤 明子 (秋草学園短期大学)
4. 幼児の環境教育としての「ムッレ教育」の意義と課題 杉山浩之 (広島文教女子大学)
5. 保育を活かす自然体験活動—札幌市西区の事例より— 田中住幸 (飯田女子短期大学)
6. 「子どもと自然をむすぶ」保育の大切さの理解を深めるために  
～保育者養成校での保育内容「表現」からのアプローチ～  
○豊泉尚美 (秋草学園短期大学) ○森下英美子 (文京学院大学)

## シンポジウム 11月19日(日) 10:15-12:15 (会場:北野講堂)

『自然保育』の実践における子どもの育ちを言語化する

話題提供 岸井慶子氏 (青山学院女子短期大学教授)  
嘉成頼子氏 (一般社団法人森の風認可外保育施設森の風ようちえん園長)  
宮島 新氏 (信州大学教育学部附属長野小学校教諭)  
司 会 酒井真由子 (上田女子短期大学准教授)

## ラウンドテーブル 11月19日(日) 13:30-15:30 (会場:A・B・D教室)

1. Play and Learn Outdoor Classroom: 教室を飛び出して野外で学ぼう  
スウェーデンの自然学校から学ぶ『野外で授業』と学びのデザイン  
～校庭で算数、園庭で英語? 遊びながら野外で学ぼう～  
司 会 山本幹彦 (NPO 法人当別エコロジカルコミュニティー)  
報告 1 Mats Wejdmark (ニュネスハムン自然学校代表代表)  
報告 2 Robert Lättman-Masch (ニュネスハムン自然学校)  
通 訳 山本風音 (NPO 法人当別エコロジカルコミュニティー)
2. 信州型自然保育 (信州やまほいく) 認定制度の理念と展望  
～認定園の実践と地域活動の調査から考察する自然保育の成果～  
司 会 上原貴夫 (上田女子短期大学教授)  
報告 1 水野辰也 (長野市立とがくし保育園長)  
報告 2 渡邊真也 (公益財団法人身体教育医学研究所)  
報告 3 竹内延彦 (長野県県民文化部次世代サポート課)
3. 先行研究に見る「自然保育」の教育的・社会的効果  
—先行研究 WG の調査を踏まえて—  
企画・司会 山口美和 (上越教育大学)  
報告 1 北澤明子 (秋草学園短期大学)  
報告 2 木戸啓絵 (岐阜聖徳学園大学)  
報告 3 石田佳織 (園庭研究所)